

学校法人 文徳学園
令和5年度 文徳高等学校・中学校評価表

1 教育方針

- 建学の精神に則り「体・徳・智」の調和のとれた、科学的思考のできる人材を育成する。
- 学問を好み、学力充実のために刻苦勉励し、併せて、人徳を備えた人材を育成する。
- 人の立場を理解し、自己抑制の効いた、思いやりや優しさを備え、人のために汗を流せる、奉仕精神旺盛な人材を育成する。
- 多様化する社会の中で、不撓不屈の精神をもってリーダーシップを発揮できる人材を育成する。

2 本年度の教育重点目標

- 4つの生活信条「奉仕精神を旺盛にする」、「人の立場を深く理解する」、「物を大切に」、「礼儀作法を実践する」を実践し、心豊かで社会に貢献できる人材の育成を図る。
- 学習指導、進路指導、生活指導、広報活動の更なる充実を図る。
- 施設設備の充実、教育環境の整備を図る。
- 生徒の諸活動(学校行事、部活動、生徒会活動)の充実を図る。

3 自己評価総括表

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

評価項目		評価の観点(具体的目標)	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目				
学校経営	特色ある学校づくり	①「体・徳・智」の調和がとれ、科学的思考のできる人材を育成する。 ②コースの特色、生徒一人一人の個性を生かした教育活動を展開する。	・4つの生活信条を学校生活・教育活動で実践する。 ・基礎から応用まで徹底した学習指導を行い、進学・就職の実績を高める。 ・運動部活動や文化部活動の活性化を図る。	B	・毎月と毎週のはじめに生活信条に即した月目標・週目標を設定し、生徒へ周知し、徹底を図った。コースの特性に沿ったカリキュラムを編成し、コース内において進路希望別のクラス編制を行い、多様な進路希望に対応した教育活動を展開した。 ・生徒の進学・就職へ向け、生徒個々の希望に沿った進路指導を継続した。部活動においても、各種大会で輝かしい成績を残した。
	開かれた学校づくり	③学校のHPや広報誌「文徳点描」で適切な情報発信をし、学校理解を進める。 ④保護者、地域及び関係機関との連携を図る。	・HPや学校通信「文徳点描」の充実を図る。 ・内部広報の充実を図る。 ・PTAや同窓会、学校評議員、地域等と連携し、協力体制を構築し、生徒支援の教育活動を推進する。	A	・HPは動画(You Tubeチャンネル等)による発信内容を充実させ、学校紹介パンフレットやチラシなどの紙媒体とリンクさせ、学校の状況を分かりやすく伝えるものとした。「文徳点描」の発行が6回に留まった。発行回数を増加させ、保護者からの感想の回収率を高めたい。学校見学ツアー4年目となり、参加者が1113名(生徒808名、保護者305名)と増加(前年比+117名)し、一定の成果をあげた。 ・文徳会総会(保護者総会)、運営委員会・合同理事会・学年別保護者会を計画どおり実施することができた。
	教育環境の整備	⑤教育環境整備を推進する。 ⑥年2回計画的に施設整備を点検し、危険箇所等の早期発見、早期対応を図る。	・ICT教育を展開するための教育環境を整備する。 ・老朽化した空調設備の改修、LED照明への取り替え、ソフトテニスコートの改修を行う。 ・学校設備不具合調査を年2回実施する。	A	・デジタル採点システム「You Mark Personal」を導入し、定期考査や平常テストに活用することで、採点時の負担軽減に努めた。ICT支援員を配置し、生徒一人一台端末の機器整備及び個々の課題解決に活用した。 ・2号館および3号館の空調設備の改修工事を計画通り実施した。4号館および5号館の既設照明をLED照明に取り替える工事を計画通り実施した。ソフトテニスコートの改修工事を計画通り実施した。 ・学校設備不具合調査を年2回(7月・12月)実施して危険箇所等を確認し、体育館を含む全館のトイレの点検及び不具合箇所の改修を実施した。
学力向上	授業力の向上	①学習指導方法の工夫・改善を施し、授業の充実を図る。 ②各コースの実情を見据え、3年間を見通した指導計画に基づき学力の定着・向上を図る。	・ICT教育を展開するため、職員の活用能力の向上を図る。 ・各コースごとの特徴を踏まえて、学力向上(基礎力の定着、応用力の涵養)に向けたシラバスを作成し、各教科担当者が工夫した授業を行う。 ・研究授業、公開授業、生徒による授業評価を実施し、指導力のアップを図る。	B	・ICT活用推進委員会を中心に職員研修を行い、ICT機器を活用した校務、教科指導への活用頻度を高めた。学力向上計画に関するメンバーで、学級経営、教科指導、進路指導等に関する各職員の取り組みについて情報を収集し、その結果をまとめ、取り組み内容の共有を図った。 ・コースごとの特徴を生かした授業展開ができた。授業公開WEEKを年3回実施することで、相互の授業を教職員の学びの場とし、各職員が自身の授業力向上に努めた。第3回では、授業公開WEEKのテーマを「ICT機器を活用した『深い学び』『協働的な学び』『主体的な学び』の実践に挑戦」とし、授業のブラッシュアップを図った。生徒アンケートから得た授業評価を担当者へ確実にフィードバックし、指導力アップに繋げた。
	学習習慣	③家庭学習の習慣化を図る。 ④生徒の課題学習への取り組み状況を把握し、適切な学習指導を行う。	・教科担当者は授業後の課題を提示し、家庭学習を促す。週末には週末課題を提示する。 ・家庭学習時間の調査を行い、個々の生徒の学習状況を把握・共有する。	B	・休暇中の課題の提示をICT機器を使って行ったり、AI型ドリル「すらら」を使ったりと、教師それぞれが工夫しながら学習指導に臨んだ。 ・家庭学習時間の調査結果や「生活と学習の記録日誌」の内容をもとに、面談を行い、学習意欲の喚起を行った。今後は生徒の学習状況をICTを利用してより客観的に把握し指導に生かしたい。
	読書指導	⑤生徒が本に親しみを持つような情報を発信し、生徒の読書意欲を高める。 ⑥読書週間を周知徹底し、読書習慣の定着をはかる。	・図書館教育、読書指導の充実を図るため、生徒会図書委員会の活発な活動を促す。 ・定期考査後の読書週間を更に活用し、読書に向かう姿勢を育む。 ・『図書だより』を年4回発行し情報伝達を図る。	B	・読書感想文等の校外コンクールへ多くの生徒が投稿した。また、生徒会図書委員会の活動を通して、文化行事における本の紹介・『図書だより』を年4回発行・読書週間を年4回設定・『クラス対抗図書室ビンゴ』の実施・『図書ラジオ』放送の実施・図書館報『金峰』の発刊等の読書奨励活動を実施した。
キャリア教育(進路指導)	進路目標設定 進路情報提供	①指導・支援の強化 ②設定目標への指導内容の充実 ③進路ガイダンス機能の充実 ④就職希望者全員合格 ⑤国公立大学への合格者増加	・学年と連携し、生徒の進路意識を高めるために、進路講演会や進路情報の提供を行う。 ・指導力、組織力向上を図るために、他校視察や外部講演会参加を促す。 ・LHRを活用し、進路学習を推進する。 ・就職面談を[3月/4月/5月/6月/7月]に実施する。就職ガイダンスを[5月/6月/7月/10月/12月/1月(2回)]実施する。面接強化指導を[8月/9月]に実施する。内定者セミナーを12月に実施する。2T職場見学会を10月に実施する。 ・大学の体験講座や見学、インターンシップを進路選択の契機とする。	B	・一人一人の生徒のニーズに応じた課外授業・進路ガイダンス・個別指導等を展開した。今後も、コースの特性に応じた進路指導のビジョンをより一層明確にしていく。対外模試の結果をもとに、担当者が普段の指導内容について省察する機会を提供した。 ・小論文研究会並びに成績分析ツールの活用研究会などを企画し、教職員の指導スキル向上に貢献した。インターンシップは今年も実施できなかったが、就職ガイダンス、面談等は予定どおり実施することで、就職意識が向上し、自発的に就職活動に取り組めるようになった。今年も企業就職希望者の合格率は100%を達成した。 ・大学入学共通テストをはじめ、大学入試では思考力・判断力・表現力がより一層問われており、授業実践について研鑽を積む機会を提供したい。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

評価項目		評価の観点(具体的目標)	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目				
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ①基本的な生活習慣の確立 ②生活信条の実践 ③掃除の徹底 ④服装・容儀を正す ⑤遵法精神の涵養 ⑥情報化社会に伴う諸問題の把握と加害・被害防止対策 ⑦薬物乱用防止の啓発と運動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健やかな成長を支える基本的な生活習慣を身につけさせる。 ・新入生研修や各学年集会を通じて人としてより良く生きる教育を行う。 ・保健部や学年と連携し、健康観察簿等で遅刻・欠席の状況把握を行い、必要に応じて、適切に指導する。 ・教育環境づくりに力を入れる。拭き掃除の徹底・整理整頓の励行を粘り強く継続する。 ・学期末に美化コンクールを実施し生徒が責任を持って積極的に校内美化に取り組むよう啓発する。 ・スマホ安全教室の実施等を通して、SNSの使い方について、正しい知識を身に付けさせる。 ・薬物乱用防止の啓発と運動の推進のため、外部講師等に依頼し、正しい知識を身に付けさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校指導時や廊下等で生徒とすれ違う際に教師側から積極的にあいさつを行ったことで、自発的にあいさつをする生徒が増加した。各学年集会ではルール、マナーの遵守の徹底を呼びかけ、学校外でも文徳生の自覚をもって行動できるよう指導を行った。今後も、生徒個々の規範意識の向上を目指し、整容指導を含めた日常的な生活指導の充実を図る。美化コンクールを行ったことで生徒1人1人の意識が高まり、責任をもって取り組む生徒が増えた。スマホ・ケータイ安全教室、少年犯罪防止講話をとおして、SNSの使用で人を傷つけないようにと啓発を行った。また、少年犯罪防止講話をとおして、薬物乱用防止の啓発を行った。昨年度に引き続き、今年度もコロナ禍の生活に欠かせないマスク着用、手指消毒の徹底に力を注いだ。生徒が登校する前に校舎内の換気を毎朝行った。
人権教育の推進	人権教育を推進し、豊かな人間性を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ①他者への思いやりをもって対応できる人間の育成 ②命を大切にすることを育む指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の人権意識を高めるため、人権・同和教育講演会を実施する。 ・人権啓発作品、標語・人権メッセージ等への応募率を上げる。 ・昨年度応募率：人権啓発作品標語(対象：高1)応募率220人(58%)人権メッセージ(対象：高2)260人66% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・人権・同和教育講演会を演題「ハンセン病回復者及びその家族の人権」で実施、人権尊重、いじめ防止などを含めた講演内容であった。また、職員に対しては、職員研修で「同和教育 未来に向けて」を視聴し、同和教育への認識を深めた。 ・人権啓発作品への応募率は、標語(対象：高1)217人(63%)。人権メッセージ(対象：高2)227人(63%)例年と同様の取組ができた。
いじめの防止等	「いじめ」の未然防止・早期発見・迅速な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ安全教室等を通して啓発活動を行う。 ・心のアンケート等を通じて、「いじめ」の早期発見に努め対応する。 ・いじめ対策委員会を開催し、生徒の状況を把握して迅速な対応に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ安全教室を実施し、感想文等で生徒の反応を確認する。HR等で定期的に啓発活動を実施する。 ・心のアンケート等を通じて、「いじめ」の早期発見に努め、発見した場合は、学校いじめ対策委員会で検討し、生徒指導部・学年・担任と連携して迅速に対応する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ・ケータイ安全教室、演題「上手な情報活用とリスクを考えよう」を通して、啓発活動を行った。 ・心のアンケートを実施することで「いじめ」の早期発見に繋がった。 ・学校いじめ対策委員会を開催し、指導や支援について協議し、生徒指導部、学年、担任で継続的に対応した。いじめ防止対策のため、今後は、生徒へのアンケート調査を年に複数回実施し、委員会を開催し、早期発見に繋がりたい。
健康教育	健康で安全な生活	<ul style="list-style-type: none"> ①自己理解を図り、健康管理ができる生徒を育成する。健康観察(出席者)1限目開始前の入力100%達成。受診報告書の回収率50%達成。 ②心身の疾病やケガに対して予防・対処できる生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と協力し、健康観察を実施する。生徒に健康状態の入力や受診を促す。 ・毎月保健だよりを発行し、教室掲示とchromebookのロイロノートで公開する。感染症の発症・発生リスクが高まる時期にはそれらを取り上げ啓発する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察(出席者)1限目開始前の入力は11月に80%を超え、徐々に低下したものの50%以上を維持した。2学期終業式に受診を呼びかけ、受診報告書の回収率は29.4%であった。さらなる改善が必要。 ・保健だよりはchromebookのロイロノートでも公開した。暑い時期に起こりやすい食中毒や熱中症について啓発するとともに、文化祭の発表と保健だよりを連動させる等、情報発信の方法を増やすことができたことはよかった。
	教育環境の整備	③全ての生徒が安心して学校生活を送ることができる環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の安全点検を体育科、総務部、衛生委員会と協力して実施する。 ・カウンセリング部とのICTを活用した情報共有システムを作る。 ・消毒液とCO2濃度測定器を各教室に設置し、生徒の主体的な感染対策の実施を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各所と連携し、安全点検を実施した。 ・ICTを活用してカウンセリング部との情報共有のファイルを作成し、毎月のカウンセリング委員会で生かすことができた。 ・保健委員会主催の「換気強化週間」で、各教室の窓開けを推奨し、CO2濃度測定器の数値のチェックを行い、生徒一人一人の感染防止への意識が高まった。 	B
保護者との連携	円滑な文徳会(PTA)活動の実施および連携	文徳会総会において出席者70%以上。 その他の文徳会行事を対面で実施する。	感染防止対策を講じて文徳会総会・学級懇談会を実施する。その他の文徳会行事も対面での実施で計画を進める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・文徳会総会を予定どおり体育館で実施できた(出席率47.5%、委任状含めて99.6%)。各学年保護者会も予定通り実施できた。PTAスポーツ大会(ミニバレー)を保体委員を中心に実施できた。文徳会新聞では職員紹介の顔写真を撮影し、新聞の発行を行った。朝の挨拶運動も計画どおり実施できた。生徒会を中心とした挨拶運動の実施を検討する。
特別活動	学校生活、学校行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒一人一人が学校行事や生徒会行事、学級行事に積極的な姿勢で参加する。 ②生徒会活動の活性化と学校行事の見直しを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会・各委員会の活動内容を、生徒が主体性をもって活動しやすいように見直しをする。 ・文化祭やクラスマッチ等の行事の充実を図る。 ・HR活動の時間を通して、生徒の主体性を育てる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会・文化祭は外部の観客を入れ充実した内容となった。クラスマッチは予定通り実施できた。芸術鑑賞会は、市民会館で、全校生徒を入れて実施できた。毎月の委員会活動についても、活動の時間・場所を指定して定期的に実施できた。

4 学校関係者評価

(1) 生徒による評価（アンケートより）

- ① 学校が楽しいですか。
- | | | |
|-----------------|--------|------|
| ・楽しい・まあまあ楽しい | 肯定的な回答 | ◇91% |
| ・あまり楽しくない・楽しくない | 否定的な回答 | ◇9% |
- ② スポーツや音楽、趣味など、自信のあることや自慢できるものがある。
- | | | |
|-----------|--------|------|
| ・ある・少しある | 肯定的な回答 | ◇79% |
| ・あまりない・ない | 否定的な回答 | ◇21% |
- ③ 授業が分かりますか。
- | | | |
|-----------------|--------|------|
| ・分かる・まあまあ分かる、 | 肯定的な回答 | ◇84% |
| ・あまり分からない・分からない | 否定的な回答 | ◇16% |

①の「学校が楽しいですか」という質問への回答から、ほとんどの生徒が本校での高校生活を楽しんでる状況が窺える。「楽しい・まあまあ楽しい」の数値が前年度から2.4ポイント減少している。「楽しくない」と明確に回答した生徒は2.5%で、0.5ポイント上昇した。今後は一層、丁寧に生徒の声に耳を傾けたり、生徒の諸活動を充実させたりして、より多くの生徒が充実した生活を送れるようにしていきたい。

②の「スポーツや音楽、趣味など、自信のあることや自慢できるものがある」という質問に対する肯定的な回答が79%であり、昨年度と同じであった。今後も挑戦する行動力とやり抜く力を育て、自信につなげていきたい。

③の「授業が分かりますか」という質問に対する「分かる・まあまあ分かる」という肯定的な回答は、昨年度から2ポイント増加し、84%であった。今後も、より分かりやすい授業づくりを心掛け、授業の質の向上に取り組んで行く。

(2) 学校関係者評価委員による評価

①当年度はソフトテニスコート的人工芝新設工事を実施されており、屋外の体育施設の整備を着々と進められている印象を持っている。②昨今、貴校にかかわらず他校でも自転車のマナーが悪いと感じられるが、交通事故防止の観点から交通安全教育の徹底とマナー指導も併せて対応いただきたい。③以前と比して「文徳点描」の発行回数が減ってきているようである。毎月の発行は大変な労力であると理解できるが、できれば月一回の発行をお願いしたい。学校行事や部活動等の様子、家庭からの声を伺うことができ、大変参考になるとともに記事がきっかけで生徒とのやり取りが増える等、重要な情報の獲得手段でもある。他校では真似できない誌面を今後も期待したい。④新型コロナウイルス感染症の扱いが2類から5類へ移行したが、インフルエンザの蔓延により、貴校も学年閉鎖や学級閉鎖等影響を受けられており、感染症のリスクが治まったわけではないので、引き続き感染拡大防止に向けた取り組みを今後も継続してもらいたい。

5. 総合評価 本年度の重点目標である下記の4項目について評価を行う。

(1) 生徒指導

「心豊かで社会に貢献できる人材の育成」という目標を立て、毎月や毎週の目標を示し、教職員が共通認識を図り、生徒指導を行った。今年度もコロナ禍という状況ではあったが、感染防止対策を講じて、予定通り行事を実施することができた。今後も学校行事に工夫を加え企画し実施したい。部活動でも、時間的・空間的制約を受けながら、体育部19団体・文化部4団体・同好会9団体それぞれが、工夫を凝らして、活動を継続し、好成績を残した。各委員会活動を定期的実施し、生徒会の活性化を図った。「あいさつ」「身だしなみ」「環境美化」等についての指導を継続している。さらに、「生徒の心に火をつけ」、生徒が主体的に行動するような取り組みを工夫したい。

(2) 学習指導、進路指導、広報活動の更なる充実

（学習指導）ICT機器のさらなる活用のため、職員研修を年間3回実施し、教職員の自己研鑽を促した。授業公開WEEKを年間3回実施し、教師個々の授業スキルアップを目指した。

（進路指導）一人一人の生徒のニーズに応じた進路指導を行った。進路志望や学習到達度に応じた学習に取り組むことができるように、3年生の朝課外の在り方を見直すとともに、自習環境を整備し、始業前にも生徒が自学に取り組むことができるよう、自習室の設置を行った。本校生が自走するためには、教師の支援が必要である。課外授業を含め、適切な支援の在り方について今後も検討していく。

（広報活動）学校からのお知らせや動画コンテンツなど適時に更新し、今年度のYouTubeチャンネル再生回数は109,434回（前年の2倍）となり、一定の成果を得た。広報イベントの工夫と、文徳点描の記事の充実を図った。学校見学ツアーは、オープンキャンパスから変更して4年目となり、昨年度の996名を上回る1,113名の生徒と保護者の参加を得、本校の魅力を伝えることができた。また、各中学校で実施された学校説明会で使用するプレゼンテーション用のパワーポイント資料を作成し、統一した内容で、担当職員による分かり易い説明が実施できた。

(3) 教育環境の整備

2号館および3号館の空調設備の改修工事、4号館および5号館の既設照明をLED照明に取り替える工事、ソフトテニス場の改修工事等、計画通り実施することができた。学校設備不具合調査を年2回（7月・12月）実施して危険箇所等を確認し、体育館を含む全館のトイレの点検及び不具合箇所の改修を実施した。令和6年度も引き続き点検作業を実施し、迅速に対応したい。

(4) 生徒の諸活動(学校行事、部活動、生徒会活動)の充実

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、体育大会・文化祭・修学旅行・強歩会等の行事を実施することができた。終業式や始業式、講演会等については、教室からリモートで参加する学年と体育館に集合する学年に分け密を避けて実施したり、後半は体育館に一堂に会して実施したりした。部活動では、熊本県高等学校総合体育大会において、相撲部が15年連続団体戦優勝、個人戦も上位独占。ソフトテニス部も団体・個人ともに優勝。硬式テニス部も男子個人優勝。バドミントン男子団体2位、空手道部女子団体・個人組手優勝、男子ソフトボール部3位、女子ソフトボール部3位、剣道男子団体3位、硬式テニス部男子団体3位と活躍。相撲部・ソフトテニス部・硬式テニス部・バドミントン部・ライフル射撃部が全国大会に、空手道部・バドミントン部が九州大会に出場した。ライフル射撃部では特別国民体育大会で個人優勝、空手道部は全国選抜大会へ2年連続出場、ソフトテニス部も全国選抜大会へ出場を果たしている。女子ソフトテニス部は、新人戦個人で入賞し、九州大会への出場を果たした。剣道部では新人戦個人で入賞し、九州大会へ出場を果たした。軟式野球部は全国高等学校軟式野球選手権熊本大会準優勝、南部九州大会準優勝という結果を残した。硬式野球部は春の九州地区高等学校野球熊本大会準優勝。その後、九州大会に駒を進め、RKK旗争奪選抜高校野球大会は優勝した。体育部19団体・文化部4団体・同好会9団体それぞれがコロナ禍においても工夫を凝らしながら活動を継続し、生徒自身の充実感につなげることができた。体育部19の内13部活動で女子の入部が可能であり、女子生徒の活躍の場も広がっている。生徒会活動では、委員会活動の活性化に取り組み、定期的な集会をとおして、生徒主体の活動ができ、体育大会、文化祭の成功に繋がった。

6. 次年度への課題・改善方策

- (1) 生徒へのSNSリテラシーの啓発や整容指導のあり方など課題があり、ルール作りが急務である。入学してから卒業までの3年間「4つの生活信条」の実践に基づいた生徒指導を今後も継続したい。

（学習指導）家庭学習時間調査を継続し、成績との相関関係等の分析が必要。ICT支援員を活用し、AIドールすらの有効活用につなげる。

（進路指導）入学試験における選抜方法の多様化に伴い、志望理由書・小論文・面接の指導体制を強化する必要がある。低学年時から生徒が上級学校での学習や研究等に触れる機会、就業やボランティアに関わる体験的な学習等の機会を設け、進路意識の向上につなげたい。

（広報活動）中学校や塾との情報交換を充実させ、入試情報や学校行事等の情報を魅力的に、より早く、より分かりやすく、正確に発信する。

- (3) 学習環境を向上させるため、日頃から掃除を徹底し、学校設備不具合調査を通して確認された不具合箇所の点検や回収を迅速に実施する。新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症対策として、次年度も感染拡大防止に向けた取り組み（手消毒及び換気の徹底）を継続して実践していく。

- (4) 生徒が主体的に学校行事に参加するよう、生徒会を中心に、生徒が自ら考え、取り組む機会を増やしていきたい。